



社会教育施設としての 博物館の未来

先日盛岡市の「盛岡市自治体経営改善方針及び実施計画令和7年度～11年度」が発表されました。策定の背景と必要性として「人口減少や少子高齢化が急速に進行する中、将来にわたって持続可能な地域社会を築いていくためには、将来の人口動態を念頭に、人手不足やインフラの老朽化など予測される事態に的確に対応しながら、持続可能な形で行政サービスを提供する必要があります。そのためには、地元経済の活性化により税収確保を図ると同時に、行政サービスの重点化・効率化に取り組んでいくことが重要です。」と記載されています。

県都盛岡市でこのような取組が始まるのであれば、県内他市町村においても、様々な見直しが「待ったなし」の状況です。県内公共施設は昭和40年代の高度経済成長時代に建設されたものが多く、現在は老朽化が著しく、今後の「行政サービスの重点化・効率化」を考えれば、今までと同じ運営方法での存続は厳しくなると感じられます。

そのような公共施設の中に「博物館（民俗資料館等含む）」があります。公立私立含め県内には105か所あります（「社会教育基本調査」岩手県教育委員会より）。郷土の自然・歴史・文化等の資料の収集・保管・展示・教育・調査・研究等の役割を半世紀以上にわたり継続してきた施設です。多くの市民が日常的に利用する施設ではないので、既にあり方検討等の議論が行われているのでしょうか。

博物館のもつその機能や役割は、その地域固有の歴史や自然・文化の情報の集積として、地域の記憶を守り、地域のよりどころとなっているはずです。住民の、郷土への誇りとつながりを確認できる場でもあります。今までの地域の教育への貢献度やその存在意義を確認し、現状の課題を踏まえ、今後、どのような役割を果たし、どのように持続可能な仕組みづくりにしていくかを考えていくことが肝要と感じています。

博物館法の改正（令和4年4月）

令和4年に博物館法が改正されました。制定から70年を経て、時代に即したものになりました。

博物館法の主な改正内容【文化庁 HP より】

1. 法律の目的及び博物館の事業の見直し

- ・目的に文化芸術基本法に基づくことを追加
- ・博物館資料のデジタル・アーカイブ化を追加
- ・他の博物館との連携、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光など地域の活力の向上への寄与を努力義務化

2. 博物館登録制度の見直し

- ・地方公共団体、社団法人・財団法人等に限定していた設置者要件を法人類型にかかわらず登録できるように改め、地方独立行政法人立、会社などの登録も可能に
- ・資料の収集・保管・展示及び調査研究を行う体制等の基準に適合するかを審査
- ・都道府県等教育委員会による学識経験者の意見聴取、運営状況の定期報告、報告徴収・勧告など登録審査の手続き等の見直し

3. その他の規定の整備

- ・学芸員補の資格要件を、短期大学士を有する者で、博物館に関する科目の単位を修得した者等に
- ・国・都道府県教育委員会による研修の対象に、学芸員以外の者も含める
- ・博物館に相当する施設として指定された施設（指定施設）の他の博物館等との連携等を努力義務化
- ・令和5年4月1日施行（既に登録されている博物館は施行から5年間は登録博物館等とみなす経過措置等）

博物館事業の見直しが必要になってきています。限りある財源や人材で知恵を出し合い運営することになり、なかなか難しい対応が求められます。

そこで、生涯学習推進センターでは2年間の「『博物館』の地域における社会教育的役割に関する研究」の調査・研究結果を令和8年1月29日30日開催する「岩手県生涯学習推進研究発表会」にてお示します。（※詳しくは別ページを参照ください）

教育のあり方が問われる時代です。学校教育でも「教員の働き方改革」「部活動の地域展開」等、変革を求められています。社会教育施設である博物館も同様に、既存の事業推進ではなく、時代に合った事業展開が求められます。そのヒントとなるべきことをみなさんと一緒になって考える機会としていきたいです。（所長：千葉 憲一）

岩手県立生涯学習推進センター 事業報告

9/8(月)実施 放課後の子どもの居場所指導者研修会2

子どもに対する性暴力の発生の状況について知り、現場での発生を防ぐために求められる対策や支援について考えることを目的に、286名が受講しました。講師に上智大学総合人間科学部心理学科准教授 齋藤 梓 氏を招き、講義を行いました。講義では、性暴力が子どもたちを守るために「性暴力は生じうるとの意識や理解」「未然防止・早期発見に向けた日頃からの取組」「疑い段階から重く受け止めた対応」が重要であるということを教えてくださいました。また、「周りの大人が性暴力に関する知識を学び、視点を増やして、子どもの小さな変化を見逃さない努力が必要である」と訴えました。後半は、参集の受講者からの質問を受け付け、齋藤氏に回答していただく時間としました。



齋藤 梓 氏



9/10(水)実施 地域安全防災研修会

地域のつながりづくりや命を守る観点から、地域防災について学ぶことを目的に、34名が受講しました。講師に岩手県立大学総合政策学部 准教授 兼 岩手県立大学防災復興支援センター 副センター長 杉安 和也 氏を招き講義・演習を行いました。講義では、地域をつくり育てる防災活動として、ハザードマップ演習(DIG)と避難所運営ゲーム(HUG)についての具体的な手法や、実習例を紹介していただきました。演習ではグループでHUGの体験を行い、実際の避難所運営でどのような対応を取ればよいかを話し合いました。行政説明では岩手県教育委員会事務局より、岩手の復興教育と防災教育の説明を行いました。事例発表では一関市 中里まちづくり協議会事務局 齋藤 裕美 氏より中里地区の防災の取組を紹介していただきました。



杉安 和也 氏

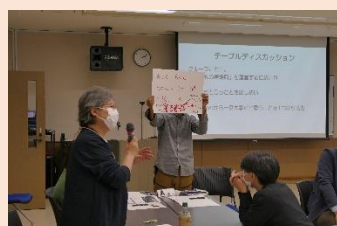


10/10(金)実施 事業づくり研修講座

子どもたちが安心して過ごせる「居場所」について必要な視点と手法を学び、具体的な活動につなげることを目的に、22名が参加しました。講師に岩手大学教育学部 准教授 兼 地域社会教育推進室 副室長 深作 拓郎 氏を招き講義を行いました。講義では、「子どもの権利条約」「児童福祉法」「子ども基本法」等の子どもの権利がどのように変遷してきたかに触れられていました。子どもの居場所づくりでは、主体である子どもの意見が尊重され、子どもたちが自ら居場所づくりに参画するようなものでなければならないこと、大人の価値観や評価を持ち込まないこと、子どもと大人と一緒に居場所を作っていくことなど、居場所づくりをするうえで大切にしたいことを教えていただきました。



深作 拓郎 氏



11/25(火)実施 人・つながり・地域づくり関係職員等研修講座 (釜石会場)

少子高齢化問題を抱える市町村の地域コミュニティを維持・活性化していくための方策を考えることを目的に、16名が受講しました。講師に東海大学建築都市学部建築学科 准教授 後藤 純 氏を招き、講義を行いました。講義では、地域づくりにおいて新しい担い手が自分の才能を発揮できるような居場所づくりが大事であることを教えていただきました。また、釜石市のコミュニティケア型仮設団地住宅で自治会を立ち上げた事例から、共生社会に求められる地域づくりの考え方を学ぶことができました。後藤氏と取り組んできた実践について釜石の2団体(社会福祉協議会・地域包括支援センター)より具体的な取組を紹介していただきました。



後藤 純 氏



～人づくり・つながりづくり・
地域づくりフォーラム2025～

岩手県生涯学習推進

研究 発表会

期日

2026年

1/29・30

(木)

(金)

会場/定員

◇生涯学習推進センター/参集100名

◇オンライン(YouTube配信)/無制限

※2/27(金)まで申込者限定オンデマンド配信あり

対象

県及び市町村の生涯学習・社会教育関係者、全国の生涯学習・社会教育関係機関や団体関係者、県及び市町村の地域づくり関係者、NPO法人関係者、学校関係者

関心のある方、どなたでも！

参加申込

右の二次元コードよりお申込みください。

★申込締切★

令和8年1月15日(木)



【1月29日(木)】

受付13:00～ 開会13:30～

受付	開会 行事	13:45～15:45 基調講演
----	----------	---------------------

今年度開催された
大阪・関西万博や多数
のメディアでご活躍!!

◆基調講演◆

「博物館の未来地図 ―地域社会をどう変えるか」

<講師>

大阪国際大学

国際教養学部 国際観光学科

准教授 五月女 賢司 氏



大阪国際大学 国際教養学部 国際観光学科 准教授。レスター大学（博物館学）、ロンドン大学（教育・国際開発学）修士。JICA青年海外協力隊（JOCV）としてザンビア・ルサカ国立博物館に教育担当官として勤務。その後、吹田市立博物館学芸員を経て現職。文部科学省（文化庁）文化審議会（文化施設部会）臨時委員。専門は博物館学、万博史、都市計画史。著書に『博物館教育論』『挑戦する博物館』『万国博覧会“人類の進歩と調和”に至るまで』など多数

【1月30日(金)】

受付9:30～ 閉会15:30

受付	10:00～12:15 研究発表・協議	昼 食 休 憩	13:15～15:20 パネルディスカッション	閉 会
----	------------------------	------------------	----------------------------	--------

◆研究発表・協議◆

1年次「子どもの『居場所』づくりと社会教育の課題に関する研究」



社会教育主事 佐々木 学

2年次「『博物館』の地域における社会教育的役割に関する研究」



主任社会教育主事 土谷 文子

<助言・コーディネーター>

岩手大学名誉教授 新妻 二男 氏



◆パネルディスカッション◆

「博物館をもっと面白くする視点

―地域と共に考えるこれからの可能性」

<コーディネーター> 岩手県立美術館 館長 長内 努 氏

<事例発表・パネリスト>

岩手県立博物館 館長 坂 本 美知治 氏

北上市立博物館 館長 渋谷 洋 祐 氏

遠野市立博物館 館長 長谷川 浩 氏

※当センター
土谷文子主任社教
がパネリストとし
て参加します。

【問合わせ】

☎ 0198-27-4555



滝沢市教育委員会生涯学習スポーツ課から、特色ある事業について寄稿いただきました。

たきざわ学び&いきいきセミナー

滝沢市では、生涯学習推進計画学びプランたきざわに基づき、社会課題や教育課題について関心を持って取り組む人づくりを目指した課題解決学習と誰もが何歳になっても学びなおし、学んだ成果を活かした更なる活躍を目指したリカレント教育の推進に重点的に取り組んでいます。

盛岡大学・盛岡大学短期大学部との包括的連携に関する協定に基づき、「たきざわ学び&いきいきセミナーwith盛岡大学・盛岡大学短期大学部」を令和6年度より多岐に渡るテーマをオムニバス形式で開催しています。昨年度は、全5回（スポーツ・インテグリティや親子スポーツ交流、発達障がい、災害時の栄養、源氏物語）開催し、約300人が受講。高校生も多数受講するなどオープンキャンパスのようなセミナーとなりました。

2年目となる本年度は、全4回（気候危機や食品表示の読み解き方、ドイツ語の歌、外国語習得と異文化理解）開催し、約250人が受講。同短期大学部准教授の吉村 哲氏を講師に迎え、11月下旬にビッグルーフ滝沢大ホールで行われた「ドイツ語の歌」セミナーには、岩手地区内のコーラス団体など約180人が集い、普段親しむ機会が乏しいドイツ語の歌を楽しみました。

本市は、これからも、大学や関係機関などと連携・協働しながら「学びにより充実した人生を送ることができるまち」と「郷土を愛し未来を切り拓く力に満ちた人づくり」の実現を目指した生涯学習の推進に取り組んでまいります。



たきざわ学びフェスタ

滝沢市では、教育振興運動推進協議会が主体となり、5者（子ども、家庭、学校、地域、市行政）が連携・協働し、地域の教育課題の解決と「明るく かしこく たくましい子ども」の育成に取り組んでおり、令和4年度からは、教育振興運動と全小中学校に「学校の応援団」として設置された学校教育振興協議会の一体的な推進による地域学校協働活動を展開しています。

毎年11月末には学びによる人づくりと地域学校協働活動の推進を目指して、「たきざわ学びフェスタ」を開催しています。本年度の同フェスタは、11月末にビッグルーフ滝沢大ホールで行われ、216人の皆さんが集いました。

児童生徒（社会福祉作文、英語暗唱、わたしの主張）や学校教育振興協議会（一本木小学校、滝沢南中学校）、高校生平和大使による発表が行われました。また、國學院大学教授 鈴木みゆき氏による講演「子どもの育ちを支える生活習慣と体験～地域でつながる滝沢市の魅力」では、子どもの健全育成に向けた生活習慣の改善などについてお話いただき、来場者の皆さんと一体となった魅力あふれるお話に大きな拍手が送られました。

滝沢市は、これからも教育振興運動と学校教育振興協議会の一体的な推進による地域学校協働活動を展開し、「家庭学習の充実」と「体験活動の充実」を通じた地域の教育課題の解決と「明るく かしこく たくましい子ども」の育成に取り組んでまいります。

